

# DVD 映画教材利用時の英語字幕が英語学習に 与える影響について

植松 茂男

近年、日本人の実践的英語力の育成が急務となっているが、大学では少子化に伴う学力低下が指摘され、入学者のかなりが、英語力指標テストの初級、中級レベルにとどまっている。本研究ではこうした初・中級レベルの大学生に対して、メディア教育の立場からDVD映画教材をどのように提示すれば、効果的に英語力がつくかという趣旨で調査・実験を行い、その結果を報告した。手続きとしては、被験者を初級、中級の2習熟群に分け、それぞれに「英語音声＋日本語字幕」、「英語音声＋英語字幕」の2字幕群を作った。次にそれら4グループに比較的平易なアメリカ映画を半期間（14回）見せ、毎回直後に聴解問題、内容理解問題の課題を実施した。さらに調査開始前、終了後にそれぞれTOEICテストを行った。分析の結果、課題の初回には初級、中級群とも字幕群間の成績平均に有意差はみられなかったが、半期後の課題では初級、中級群とも聴解問題、内容理解問題の双方の平均点で、英語字幕群が日本語字幕群を有意に上回った。また調査終了後のTOEICテストでは、初級英語字幕群で聴解力スコア、中級英語字幕群で聴解力、文法読解力の双方のスコアが有意に向上した。以上の結果を踏まえ、DVD映画教材の外国語教育に果たす役割について考察した。

キーワード

DVD、マルチメディア、外国語教育、聴解力、内容理解

## 1. はじめに

今日DVD映画教材は市販ソフトの種類の実と廉価化に伴い、一層身近な英語学習教材になっている。また個人のDVD環境の実も容易になったため、多くの英語学習者が教室だけでなく自宅でもこの恩恵に浴しているのではなかろうか。英語教育工学の主流もLL (Language Laboratory) 教室の登場以来、長らく主流であったオーディオカセットテープやビデオを使った学習形態から、DVDやインターネットリソースを用いたマルチメディア方式の語学教育に移行しつつある。語学学習用の字幕や音声の任意の組み合わせは、ビデオ教材では高度な技術を必要としたが、DVD教材ではあらかじめ複数の組み合わせが用意され、選択が可能になっているものが多い。しかしどのような字幕・音声の組み合わせが内容理解や聴解力の向上に最も寄与するのかなど、ソフト面の実証的検証は機材の普及に比べて立ち遅れている感が否めない。本研究ではどのような音声情報と字幕情報の組み合わせが、初級、中級レベル<sup>1)</sup>の英語学習者に最も効果があるのかということに焦点を当てて、調

査を実施した。

Paivio (1986) は、音声と文字・映像を組み合わせた複数情報提示が、外国語学習により効果をもたらすというDual Coding Modelを提唱した。これによるとverbal(言語)情報とnon-verbal(非言語)情報が相互に補完しあうことにより、より効果的な情報記憶想起につながるとされている。しかし聴解力が低く、語彙文法力もさほどない日本人大学生初・中級レベル英語学習者の場合、果たしてその恩恵に浴することができるのであろうか。またDVD教材を継続的に使用することで聴解力は向上するのであろうか。さらに最近TOEIC、TOEFLなど、聴解問題の成否が大きく全体の成績結果に影響するテストが、英語力指標としての主流になりつつある。これらの英語能力テストの聴解は例外なく、会話やスキットを1

<sup>1)</sup>「初級、中級、上級レベル」の英語学習者の定義について、先行研究では十分な言及がない。本研究では英語力指標テストとしてTOEICを用いたため、日本におけるTOEICテスト・テキスト普及団体である(株)国際コミュニケーションズ発表のデータを参考にした。国際コミュニケーションセンターが主催する各研修レベルのTOEICスコア一覧は以下の通りである。本研究の中級レベルはこの一覧の「中級」より少し高い。(表1参照)

上級	TOEIC 500-595
中級	TOEIC 400-495
初級A	TOEIC 300-395
初級B	TOEIC 200-295

\* 「第10回TOEIC活用実態報告書」(2000)より抜粋

回聞いた直後に内容理解問題が続き、聴解力が乏しい受験者には提示内容がそもそも理解できていないと考えられる。こうした問題の解決の糸口になるべく、本研究では実践的英語力養成の観点から、DVD教材の音声・字幕の組み合わせが英語力向上に及ぼす効果を半年間の授業期間において調査した。

## 2. 過去の研究

音声情報と字幕情報にはL1 (First language、母国語)、L2 (Second language、第2言語：当該外国語：本研究に於いては英語) によるいくつかの組み合わせが考えられる。本稿ではこれらの組み合わせに関して便宜上、最も一般的な「英語音声+日本語字幕」を「日本語字幕」、「英語音声+英語字幕」を「英語字幕」、「日本語音声+英語字幕」を「反転」、「英語音声」のみを「字幕なし」と呼ぶことにする。英語字幕の、中・上級外国語学習者に対する有効性はこれまで多くの研究によって報告されてきた。(Garza, 1991; Hirose & Kamei, 1993; Chung, 1999; Markham, 1989, 1999; 田浦・田浦2001、田浦他2003)。Garza (1991) は、TOEFL500-550点前後の中・上級大学生ESL (English as a Second Language) 学習者(n=70)を「字幕なし」、「英語字幕」の2群に分け、さまざまな英語ビデオの5シーン(2~4分)を2度提示したのち、内容理解テストを実施した。その結果の分析から英語字幕の効果が内容理解に極めて高いことを指摘した。Hirose & Kamei (1993) は日本人大学生(n=275)を習熟度別に3群に分け、「字幕なし」と「英語字幕」で英語映画を提示した後、内容理解テストと語彙問題を与えて検証を試みた。その結果、すべての習熟レベルで「英語字幕」の優位を確認したが、レベルが高ければ高いほど、この効果は大きいと報告している。またMarkham(1999)も上級レベル大学生ESL学習者(n=118)に対して英語のビデオを見せ、その直後に実施した内容理解、聴解の双方のテスト成績で「英語字幕」の優位を確認している。

さらに、「日本語字幕」、「反転」を実験群に組み入れた比較も行われ、初級・中級レベルの学習者には、「英語字幕」よりもL1情報の恩恵がある「日本語字幕」や「反転」の方が外国語の聴解、内容理解に有効であるとの報告がなされている。(Lambert, Holobow, & Sayegh 1984; Borrás & Lafayette, 1994; Koskinen et al. 1996; Yoshida et al.(1998); 田浦・田浦, 2001)。例えばYoshida et al.(1998) は、初級レベル大学生(n=156)を「日本語字幕」、「英語字幕」、「反転」の3群に分け、10分間の英語映画抽出シーンを見せたあとで内容理解問題に答えさせたが、その結果の分析から、「反転」と「日本語字幕」

の「英語字幕」に対する優位を報告し、初級者には情報として理解しやすいL1を含む情報提示が効果があると報告している。

## 3. 本研究のねらいと課題

本研究では、文字情報を使わない「字幕なし」、教室であまり用いられない「反転」は比較対象から除外し、「日本語字幕」と「英語字幕」に絞ってその効果を比較してみた。上述の通り、先行研究ではL2字幕の効果が上級レベル学習者を中心に広く認められているが、それにはL2字幕を情報としての的確に処理するための読解能力、すなわち字幕速読に必要な語彙、文法力が役に立っているものと考えられている(Hirose & Kamei, 1993; 田浦・田浦, 2001、田浦他, 2003)。しかし一方で教材を平易なものにした時、初級者にもL2字幕の効果があるとDanan (1992) は指摘している。その研究とは、大学生初・中級フランス語学習者(n=57)に5分間の平易なフランス語ビデオの抽出場面を提示したあと、語彙・聴解力テストを実施したものである。考察の中でDanan (1992) は次のように報告し、教材難度を注意深く設定する必要性を述べている<sup>2)</sup>。

本実験でのL2字幕の初級者に対する効果は、母国語に頼ることなしに初級者は外国語の情報を処理できないとする、Lambert & Holobow (1984) の報告と矛盾するものである。L2字幕は、教材が彼らの習熟度に応じて注意深く選択され、聴視覚提示により既習の語句が活性化、強化されるような場合に限り、初級者にも役立つ可能性がある。(p.521)

本研究では比較的平易な英語DVD映画を教材として使い、日本人初・中級英語学習者についても、同様のL2字幕効果がみられるか検証した。Danan (1992) をはじめとして、過去の研究はほとんどが一度きりの実験に基づいてその結果を報告しているが、本研究では一定期間こうした実験を続けた(14週)場合、聴解力、文法読解能力に変化はみられるか、またその際変化の度合いは習熟差に関係があるのかという点も調査の対象に含めた。研究課題は、次の3点である。

初級、中級それぞれの日本語字幕、英語字幕の計4実験群に於いて、

<sup>2)</sup> 原文は以下のとおりである。

The relatively successful results of the bimodal input for beginning students contradict the findings of Lambert & Holobow (1984), who felt that beginners were unable to process information in the foreign language without relying on their native language. In the present study, even beginners benefited from bimodal input. Bimodal input may be helpful to beginners only if the material is carefully adapted to their level and contains many already known phrases that can be activated and reinforced by the audiovisual presentation. (p.521)

- (1) 直後の聴解問題、内容理解問題に関して成績差がみられるか。
- (2) 半期終了後の聴解問題、内容理解問題に関して成績差がみられるか。
- (3) 半期終了後、TOEICの聴解力テスト成績、文法読解力テスト成績に於いて実験群ごとにどのような変化がみられるか。

## 4. 研究方法

### 4.1 被験者

関西圏の国、私立大学生から8クラス計378名の学習者に調査への協力を依頼した。授業の初回にこの研究の趣旨と内容を説明した上で協力を要請したところ、積極的な協力の申し出があった。調査実施に伴う配慮として、各テストの成績等は個別に公開することとし、授業本体に何らかの障害が生じれば即座に補習等で対応することとした。また課題によって字幕群間にレベル差が生じた場合、後期の半期間は字幕群を入れ替えて、別のDVD教材を使用して均等化を図ることとした。次に実験群作りのため、8クラスに対してTOEICテストを実施した後、初級、中級レベルで最も近い平均値を持つ2クラスずつ、計4クラス189名を実験群として選んだ。4クラスのTOEICテスト成績平均はそれぞれ表1の通りであった。

表1 初回TOEICスコアの成績

	平均値	標準偏差	最低値	最高値	人数
初級英語字幕群	392.30	112.88	120.00	615.00	46
初級日本語字幕群	389.70	81.84	240.00	580.00	48
中級英語字幕群	508.41	144.09	135.00	810.00	48
中級日本語字幕群	509.53	96.14	355.00	820.00	47

### 4.2 手続き

教材として利用した映画はWarner Home VideoのDVD映画「Free Willy」[フリーウィリー] (1993年制作、全体113分)である。家族に捨てられた孤独な少年Jesseが、水族館で同じく家族から引き離されたシャチのWillyに出会い、次第に心を通わせていくというストーリーである。課題作成に抽出した場面(計60分)の英語の難易度は、「読みやすさ」の指標であるFlesch Reading Ease (RE) 91.4、で「非常に平易」<sup>3)</sup> また英語母語話者の学年

<sup>3)</sup> Flesch Reading Ease (RE)

ネイティブスピーカーにとつての英文の難度を数量化する公式。シラブル数による語の長さとし1文あたりの平均語数で算出する。Flesch (1948) によると以下のような基準になっている。

1-30 Very difficult  
30-50 Difficult  
50-60 Fairly difficult  
60-70 Standard  
70-80 Fairly easy  
80-90 Easy  
90-100 Very easy

相当レベルを判定するFlesch-Kincaid Grade Level<sup>4)</sup>では1.5(小学校1、2年生相当)であり、調査した子供向け映画中最も平易であった。映画場面の抽出にあたっては、毎回5分ずつのシーンを物語の進行順に使ったが、映像が主たる場面、子供同士の極度に難解なスラングを含む場面は筋の理解に影響がない範囲で割愛した。

調査方法は、それぞれの字幕群に従って毎回5分間抽出部分を2度見せた。1度目の映写のあとに内容理解問題(10題10点満点 資料1参照)を与えた。解答制限時間は5分である。さらに2度目の映写時にスクリプト上の語彙穴埋め問題(聴解問題、10題10点満点 資料2参照)を与えた。映写及び課題の合計時間は約20分間で毎回の授業の最初の部分を利用した。このような課題を週1回、半期(14回)にわたって行った。但し、第1回目はこの研究についての説明を行い、最終回は残りのビデオを視聴させる(希望により)ために使ったので、実際の課題実施期間は12週である。TOEICテストは第1回目と14回目の週末に実施した。各回の問題は内容理解、リスニング問題(語彙穴埋め)とも標準化の作業を行っていない。場面が異なる各回の問題の難易度を完全に標準化することはきわめて困難な作業である。さらに正解が音声情報だけでなく、映像情報から判断可能な場合があるという点(Hirose & Kamei, 1993; Yoshida et al., 1998)) に関しても配慮し、映像情報から判断可能な問題は極力排除した。また事前に内容理解問題を提示する方法も他研究にはみられたが、字幕だけに集中するなど偏った視聴の方法に陥る可能性があるため、本研究では内容理解問題は1回目の提示後まで見ないように指示した。また2回目の映写時は聴解問題以外の作業をしないようにも指示した。

## 5. 分析結果

### 5.1 聴解問題、内容理解問題の結果について

各回に収集した課題解答用紙は点数化したあと、すべてSPSS 11.0 for Windowsを使って統計処理をした。課題、TOEFLテスト欠席等の欠損データ処理を行ったため、有効処理データ数は189名中167名分であった。聴解問題、及び内容理解問題の各回データは表2の通りである。この中から初回(1回目)、最終回(12回目)の聴解及び内容理解問題の成績を各習熟群、字幕群ごとに比較した。

<sup>4)</sup> Flesch-Kincaid Grade Level

英文の難度をネイティブスピーカーの適切な学年レベルで表示する公式。1文あたりの平均語数と1語あたりの平均シラブル数で算出。Brown & Yamashita (1995)はこの公式を使って大学入試の英語読解問題のレベル分析を行った。その結果、各問題間には小学校上級生相当から大学3年相当までのばらつきがあったと報告している。

表2 課題各回の結果

聴解問題

回数	度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
1	167	2.73	0	6	1.17
2	167	2.76	0	6	1.11
3	167	4.55	0	9	1.62
4	167	3.18	0	6	1.28
5	167	3.46	0	6	1.38
6	167	5.77	2	10	1.77
7	167	4.01	0	7	1.44
8	167	3.87	0	8	1.49
9	167	4.66	0	9	1.57
10	167	4.52	1	8	1.55
11	167	4.55	1	10	1.69
12	167	4.69	1	9	1.61

内容理解問題

回数	度数	平均値	最小値	最大値	標準偏差
1	167	3.87	0	9	1.52
2	167	2.89	1	7	1.32
3	167	3.02	0	8	1.38
4	167	6.76	1	10	2.01
5	167	4.11	1	9	1.54
6	167	4.32	1	10	1.58
7	167	6.13	1	9	2.21
8	167	5.04	1	10	1.96
9	167	4.33	2	9	1.69
10	167	4.72	2	9	1.83
11	167	5.32	3	10	1.94
12	167	4.34	1	8	1.77

表3 聴解問題各群平均 (1回目)

習熟群	英語字幕		日本語字幕	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差
初級	2.17	.78	2.19	.93
中級	3.18	1.17	3.37	1.21

表4 聴解問題分析結果 (1回目)

ソース	平方和	自由度	平均平方	F
主効果	21.867	3	7.289	6.747***
習熟度	9.701	1	9.701	7.761**
字幕	4.698	1	4.698	3.758
習熟x字幕	2.134	1	2.134	1.435
誤差	205.007	163	1.250	
全体	226.874	166	2.367	

\*\* $p < .01$ 、\*\*\* $p < .001$

表5 内容理解問題各群平均 (1回目)

習熟群	英語字幕		日本語字幕	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差
初級	3.85	.77	3.44	.98
中級	5.50	1.34	4.92	.98

5.1.1 直後の聴解問題、内容理解問題の結果について

研究課題(1)の分析である。

第1回の結果について、習熟群ごとの平均と、標準偏差は聴解問題、内容理解問題それぞれ表3、5の通りである。2要因分散分析(有意水準 $p < .05$ )の結果、習熟群間の成績有意差がみられた。字幕群間の有意差は検出されなかった。また習熟群、字幕群間の交互作用はみられなかった(表4、6)。この結果をまとめると、直後の聴解問題、内容理解問題においては日本語字幕、英語字幕間の成績差は統計的には検出されなかったといつてよい。

表6 内容理解問題分析結果 (1回目)

ソース	平方和	自由度	平均平方	F
主効果	205.755	3	68.585	61.625***
習熟度	97.795	1	97.795	83.687***
字幕	7.932	1	7.932	4.931
習熟x字幕	12.734	1	12.734	4.85
誤差	178.605	163	1.096	
全体	384.359	166	2.315	

\*\*\* $p < .001$

表7 聴解問題各群平均 (12回目)

習熟群	英語字幕		日本語字幕	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差
初級	4.28	1.15	3.58	1.16
中級	5.98	1.68	4.88	1.32

表8 聴解問題分析結果 (12回目)

ソース	平方和	自由度	平均平方	F
主効果	126.816	3	42.272	34.096***
習熟度	27.61	1	27.61	14.84***
字幕	55.82	1	55.82	30.02***
習熟x字幕	6.31	1	6.31	2.67
誤差	304.992	163	1.871	
全体	431.808	166	2.601	

\*\*\* $p < .001$

表9 内容理解問題各群平均 (12回目)

習熟群	英語字幕		日本語字幕	
	平均	標準偏差	平均	標準偏差
初級	4.43	1.57	2.93	1.44
中級	5.91	1.29	4.05	1.38

表10 内容理解問題分析結果 (12回目)

ソース	平方和	自由度	平均平方	F
主効果	194.630	3	65.877	41.345***
習熟度	47.795	1	47.80	23.687***
字幕	79.320	1	79.32	39.311***
習熟x字幕	7.22	1	7.22	2.81
誤差	330.915	163	2.016	
全体	525.545	166	3.166	

\*\*\* $p < .001$

### 5.1.2 半期終了後の聴解問題、内容理解問題の結果について

研究課題(2)の分析である

課題の最終第12回目の成績について、習熟群ごとの平均と、標準偏差は聴解問題、内容理解問題それぞれ表7、9の通りである。2要因分散分析(有意水準 $p < .05$ )の結果、習熟群間、字幕群間それぞれに成績有意差がみられた。また習熟群、字幕群間の交互作用はみられなかった(表8、10)。半期終了後には初級、中級いずれの習熟群の聴解、内容理解でも英語字幕群の成績平均が日本語字幕群の成績平均を有意に上回った。

### 5.2 TOEIC テストの結果について

調査開始時、プレースメントテストとしてTOEICテストを用いたが、その結果を事前テストとして利用し、

表11 TOEICテスト比較表(初級群)

	平均値	標準偏差	自由度	t値	2-tail Sig.
英字幕・聴解力1	191.7	58.9	39	-4.36	.000
英字幕・聴解力2	256.8	64.0			
英字幕・文法読解力1	200.6	68.7	39	-1.41	.165
英字幕・文法読解力2	217.5	39.2			
日字幕・聴解力1	220.0	57.4	42	1.72	.093
日字幕・聴解力2	220.5	52.3			
日字幕・文法読解力1	169.7	47.7	42	1.01	.319
日字幕・文法読解力2	172.4	47.5			

表12 TOEICテスト比較表(中級群)

	平均値	標準偏差	自由度	t値	2-tail Sig.
英字幕・聴解力1	288.4	80.7	43	-4.97	.000
英字幕・聴解力2	310.7	71.6			
英字幕・文法読解力1	220.0	85.5	43	-4.89	.000
英字幕・文法読解力2	247.8	76.3			
日字幕・聴解力1	293.6	61.9	39	-1.38	.175
日字幕・聴解力2	306.1	54.3			
日字幕・文法読解力1	215.9	65.9	39	-.14	.886
日字幕・文法読解力2	217.5	53.6			

半期授業期間終了後に、再びTOEICテストを受験してもらい、これを事後テストとした。これら2回のTOEICテストの結果を、対応のあるサンプルのt検定の両側検定(有意水準 $p < .05$ )で比較し、総合英語力の変化を計った。研究課題(3)の分析である。TOEICテストを構成する2つのセクションである聴解力テスト、文法読解力テストの事前事後それぞれの成績結果は、t検定に先立ち分散の等質性を検定するために、一元配置分散分析によりLeveneの等分散検定を行った。全ての検定結果が有意ではなかったため、Welchによる自由度の修正等を行わなかった。表11、12はt検定の結果を初級群、中級群の順でそれぞれ記述したものである。分析の結果、初級群では英語字幕群で聴解力成績平均が有意に向上した。中級群では英語字幕群で聴解力成績平均、文法読解成績平均の双方が有意に向上した。

## 6. 考察

本研究ではDVD課題半期経過後に、初級、中級双方の習熟群において、英語字幕群が聴解問題、内容理解問題双方の成績平均で、日本語字幕群に有意差をつけた。しかし英語字幕の学習促進効果について初級群と中級群の間に差が見られなかったことは、習熟群間に差が出るであろうという仮説を支持する結果が得られなかったことに他ならない。その理由としては、習熟群編成手続き以外にも、教材として用いたDVDの選択、課題の作成に関して、まだ改善の余地があるということを示唆している。そうした問題を認めた上で結果について考察を加える。

まず課題の成績の変化である。聴解問題で英語字幕群が優位であったのは、Smith & Shen (1992)やBorras & Lafayette (1994)が指摘しているように、L2を視覚、聴覚を通して処理するトレーニングを続けることによりL2処理速度と正確さが向上し、それが聴解にも反映したためと推測される。

一方、内容理解問題に英語字幕群が有利であった理由としては、上記の他に教材難度が平易で内容が理解しやすかったことが考えられる。そのため内容理解問題自体の「読み」や問題点の「把握」に於いて学習促進効果があったのではなからうか。もし教材の内容が高度で、字幕を読みとれなければ、英語字幕は上述の学習促進効果を持たなかったと考えられる。L1字幕を与えられた日本語字幕群はこの速読力の養成が身につかず、正答率が低かったと推測できる。

さらに英語力の変化である。半期終了後のTOEICテストの聴解力テスト成績で、初級、中級のそれぞれの英語字幕群が調査前の成績より有意に平均点を向上させた

が、日本語字幕群では両習熟群とも有意な変化は検出されなかった。文法読解能力テスト成績に於いては、中級英語字幕群のみ、有意な平均点の向上が観察された。このようなTOEICの成績の向上はもちろんこの半期間の英語学習の全てを反映したものである。このことを念頭に置きつつ、この研究に於いてDVD課題による学習促進効果が最も顕著に認められたのは中級者であり、相対的に教材が中級者より難しいであろう初級者の学習効果促進は、聴解力に於いてしか認められなかった。つまり聴解力に関しては、本研究のように教材の難度をある程度配慮することによって、初級学習者でもDVD映画教材を利用して能力を高めることが可能であると考えられる。しかし文法読解能力の向上が中級英語字幕群に限定されたのは、ある程度の文法知識と語彙力を身につけていなければ、文法読解能力の改善を図るのは難しいというを示唆しているように思われる。

## 7. おわりに

本研究は、子供向けの映画をDVD教材として採用するという試みを行った。子供向け映画は相対的に大人向けの映画に比べて、使用語彙、会話速度、ストーリーの筋立が平易で、内容も理解しやすい。Yoshida et al. (1998) も、本研究とほとんど同レベルの初・中級者を対象に調査を行ったが、教材映画は通常大人向けのものが使われた(抽出場面Flesch RE 71.3、Fresch-Kincaid GR 7.0)。そのためスクリプトの語彙、会話、物語の展開等に於いてかなり難度が高く、母語情報がない「英語字幕」は、「日本語字幕」、「反転」に比べて内容理解、聴解に最も効果が低かったと報告している。その意味で初級者にDVD等の映画教材を利用するのであれば、教材レベルを注意深く吟味しなければならないであろう。

また前述の通り、このような課題で仮に英語力促進効果が認められたとしても、それは調査期間中の全ての英語に関する学習の成果であり、今回の結果が全てではないことも申し添えておかねばならない。例えば、被験者がこの調査期間中、他の授業や学校外でどのような英語学習の機会(例えば個人的な英会話学習)を持っていたか、詳細に調査してみなければ英語力の変化の全体像はつかめない。また長期的課題の実施に伴う、練習効果(practice effect)も十分考慮に入れなければならない。今回DVD教材は平易なものを選んだとしたが、語彙の種類や会話速度(MLU)等によって、さらに客観的な根拠を提示しなければならない。このような課題を考慮した調査を今後継続したい。

## 参考文献

- Chung, J. (1999). The Effects of Using Video Texts Supported with Advanced Organizers and Captions on Chinese College Students' Listening Comprehension: An Empirical Study. *Foreign Language Annals* 32, (3), 295-308.
- Danan, M. (1992). Reversed Subtitling and Dual Coding Theory: New Directions for Foreign Language Instruction. *Language Learning* 42(4), 497-527.
- Hirose, K. & Kamei, S. (1993). Effects of English Captions In Relation to Learner Proficiency Level and Type of Information. *Language Laboratory* 30, 1-16.
- Borras, I., & Lafayette, R. (1994). Effects of Multimedia Courseware Subtitling on the Speaking Performance of College Students of French. *Modern Language Journal* 78, 61-75
- Brown, J., D. & Yamashita, S., O. (1995). English Language Entrance examinations at Japanese Universities: 1993 and 1994. *Language Testing in Japan*, 86-100.
- Donner, R. & Milchan, A. (1993). *Free Willy*. A DVD version (2000) produced by Warner Home Video.
- Flesch, R. (1948). A new readability yard stick. *Journal of Applied Psychology*, 32, 221-233.
- Garza, T. (1991). Evaluating the Use of Captioned Video Material in Advanced Foreign Language Learning. *Foreign Language Annals*, 24, 239-258.
- Koskinen, P., Knable, J., Markham, P., Jensema, C., & Kane, K. (1996). Captioned Television and the Vocabulary Acquisition of Adult Second Language Correctional Facility Residents. *Journal of Educational Technology Systems*, 24, 359-373.
- Lambert, W., Holobow, N., & Sayegh, L. (1984). Pairing Script and Dialogue: Combinations that Show Promise for Second or Foreign Language Learning. *Language Learning* 34, 59-74.
- Markham, P. (1989). The Effects of Captioned Videotapes on the Listening Comprehension of Beginning, Intermediate, and Advanced ESL Students. *Educational Technology*, 22, 41-45.
- Markham, P. (1999). Captioned Videotapes and Second-Language Listening Word Recognition. *Foreign Language Annals*, 32, (3), 321-328.
- Paivio, A. (1986). *Mental Representation: A Dual-Coding Approach*. New York, NY: OUP
- Smith, E., & Shen, C. (1992). The Effects of Knowledge of Results Feedback of Captioning on Listening Comprehension of English as a Second Language in Interactive videodisc Systems. *Proceedings of Selected Research and Development Presented at the Convention of the Association for Educational Communications and Technology* Sponsored by the Research and Theory Division. EDRS ED 348026IR015763.
- Yoshida, H., Uematsu, S., Yoshida, S. & Takeuchi, O. (1998). Modalities of Subtitling and Foreign Language Learning. *LLA関西支部研究収録* 7, 49-63.
- 田浦秀幸・田浦アマンダ (2001)。「DVD映画提示形態(モダリティ)によるL2リスニング力への影響」『福井医科大学研究雑誌 第2巻 第1号・第2号合併号』、65-70。
- 田浦秀幸・吉川敏博・植松茂男・羽藤由美・松村優子・尾島麻奈美・田浦アマンダ・井藤真由美・水口 香 (2003)。「DVD映画利用による英語リスニング・速読力養成に関する研究」『松下視聴覚教育研究助成 第9回研究開発助

成報告書』

資料

資料1 内容理解問題例

- (1) What are fishermen doing for?
1. They are fishing sardines.
  2. They try to catch orca.
  3. They are fixing their fishing nets.
  4. They are fighting with orca.
- (2) Jesse's friend said to a woman that
1. he didn't have enough money to go home.
  2. he visited the Memorial Park.
  3. he gave up helping poor people.
  4. he didn't want to go home.
- (3) Jesse's friend told others that
1. she didn't like her school.
  2. she didn't go with her family.
  3. she wanted to go to Houston.
  4. she didn't see her mother long time.
- (4) Jesse wanted
1. to live with his friend.
  2. to have his own house to live in.
  3. to make a lot of money to buy a land.
  4. to start some business that deals with apartment houses.
- (5) The police came in
1. to catch Jesse and his friends.
  2. to give refuge to a criminal.
  3. to save the lives of marine life in aquarium.
  4. to fight back to the offenders.
- (6) Dwight got frustrated because
1. Jesse changed his attitudes completely.
  2. Jesse didn't listen to him at all.
  3. Jesse didn't go back to his home for such a long time.
  4. Jesse didn't seem to change his attitudes.
- (7) Jesse would be in jail because
1. he was captured for the first time.
  2. he did a very sinful deed.
  3. he repeated incidents several times.
  4. he escaped from jail.
- (8) Jesse looked discouraged when he knew
1. his mother came back to town.

2. his mother remarried another man.
  3. his mother turned out to be dead.
  4. his mother hasn't been heard nor seen several years.
- (9) Annie said she can teach computer because
1. she is practicing it these days.
  2. she works for a computer company.
  3. she is very active on Internet.
  4. she recently learned how to use it.
- (10) The welcome present for Jesse included
1. a chocolate, a map, and some cards.
  2. clothes and socks.
  3. blue shirt and blue cap.
  4. books and notes.

資料2 リスニング問題例

- ( 1 ) first time I ever went there... it was so bad. My mom dropped me off and went to work ( 2 ) Houston. I never saw her again. I don't care, I hate her anyway. I ( 3 ) eat one of these every day. I bolted. You bolted ( 4 ) Cooperton? I did, bonehead! Year, right! Shut up! We both did. What ( 5 ) you know? I know they watch you like you're going to stab them. I had to wait ( 6 ) some stupid foster home losers took me. ( 7 ) I slipped. Maybe you ain't as smart ( 8 ) us. Eat it! I am. I just want my own place. Year, right. You ( 9 ) me. We'll hook up with someone. ( 10 ) my brains and your personality, we'll be rich.



うえまつ しげお  
植松 茂男

大阪大学文学部卒、コロンビア大学大学院修了  
大阪府立高校教諭、千里国際学園教諭等を経て  
平成8年より摂南大学国際言語文化学部勤務。  
現在助教授。第二言語習得論、英語教育等を専門とする。

# The Effectiveness of English Captions on English Language Learning Using DVD Movies

Shigeo Uematsu

This study investigates how DVD movie material can contribute to an improvement in English proficiency. The procedure was as follows: subjects were divided into two levels (beginner and intermediate) by a placement test and each level was again divided into two treatment groups, "Japanese captions (JC)" and "English captions (EC)". The JC group was shown a DVD movie with the combination of English soundtrack and Japanese captions, while the EC group was shown the same DVD with the combination of English soundtrack and English captions. A listening test and comprehension test followed each DVD excerpt presentation. The exposure lasted for one term (14 weeks). TOEIC English proficiency tests were administered before and after the research. The analysis of the data revealed that the EC groups at both levels significantly improved their scores on both the listening test and comprehension test after 14 weeks. On the TOEIC test, both EC groups showed a significant gain in scores in listening, but only the intermediate group improved their scores significantly in the reading and structure parts. Finally, these results are discussed from the broader perspectives of DVD resource availability in the field of foreign language education in the future.

## **Keywords**

DVD, multimedia, foreign language education, listening, comprehension